

令和5年度
授業計画
講義シラバス



千葉県立農業大学校
研究科

目 次

1	教育理念	1
2	履修規程	2
3	講義要項	
(1)	教育課程表	5
(2)	時間割	7
(3)	研究科授業シラバス概要	
ア	教養科目	8
	・ 実用英語Ⅰ	8
	・ 実用英語Ⅱ	9
イ	専門教育科目	
(ア)	必須科目	10
	・ 加工・商品開発演習	10
	・ 農業経営実習	11
	・ 農場指導実習	12
	・ インターンシップ研修	13
	・ インターンシップ基礎	14
	・ 情報処理	15
	・ 食品安全とリスク管理論	16
	・ フードシステム論	18
	・ 法人経営論	19
	・ 起業論	20
	・ 販売実践講座	22
	・ 農業関係法	23
	・ アグリビジネス論	24
	・ キャリア形成講座 (税務)	25
(イ)	選択科目	26
	・ 共通科目講座 (有機農業)	26
	・ 営農講座	28
	・ 生物工学	29
	・ 発酵・微生物学	30
	・ 農政時事	31
	・ 花き装飾論	32
	・ 生物資源利用論	33

1 教育理念

千葉県立農業大学校(以下「大学校」という。)は、本県農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者を育成することを目的としている。

ここで期待される担い手及び指導者とは、農業が自然の恵みを人間生活に還元する価値ある産業であるとする農業観に立つとともに、広い視野を持ち、時代の変革に速やかに対応できる高度な専門的知識・技術及び経営管理能力と客観的な判断力を有し、地域社会に貢献するために積極的に行動できる者である。

このため、大学校においては、校訓「志農創造」の理念に立ち、青年等のもつ無限の可能性の発掘と創造力の開発をめざし、教育の方針及び教育上の視点を次のとおり設定する。

(1) 教育方針

学科別教育方針は次のとおりとする。

ア 農学科

農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成する。

イ 研究科

農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成する。

ウ 農業研修科

新たに就農しようとする者及び農業者が農業技術、農業経営に関する有益かつ実用的な知識・技術を習得するための研修を行う。

エ 機械化研修科

農業機械の安全かつ適正な取り扱いや効率的利用のための知識・技術習得するための研修を行う。

(2) 教育上の視点

次の視点に立ち教育を進めるものとする。

ア 広い視野を持つ豊かな人間性の形成

農業を、社会構造、経済構造及び農政の動向等、幅広い視点から捉え判断できるよう、豊かな人間性の形成をめざす。

また、寮生活の共同学習、集団生活を通して、自立と協調の精神を培う。

イ 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得

農業における著しい技術革新に対応するため、高度な知識・技術並びにこれを駆使する経営管理能力の習得をめざす。

ウ 地域社会における指導者としての資質の養成

優れた農業経営者として、また地域社会における指導者として、その役割を果たすため、幅広い教養の会得と指導力を養成する。

エ 土に根ざした実践力のかん養

理論だけでなく、実践的な教育を通して、農業における創造のよろこびや可能性を追求できるような人間性を育む。

2 履修規程

(目的)

第1条 この規程は、千葉県立農業大学校校則(以下「校則」という。)第19条第2項及び第48条の規定により授業科目の履修及び成績の評価に関する事項を定めるものとする。

(時間割並びに授業科目)

第2条 校長は授業計画と授業科目の時間割を年度の学期初めに公示する。

(単位制)

第3条 生徒は、個々の授業科目を履修し、当該授業科目に与えられた単位を取得するものとする。

(授業科目履修届)

第4条 授業科目のうち教養科目及び専門教育科目は、必ず履修しなければならない必修科目及び各生徒の専門的な研究及び卒業に必要な単位数を考慮して選択される選択科目で構成する。

2 生徒は、選択しようとする授業科目について、各学期の始めの授業科目に関する説明会の開催時に、授業科目履修届(別記1号-1様式、第1号-2様式)を校長に提出しなければならない。

3 授業科目履修届を提出した後の取消し又は変更は、原則としてこれを認めない。

(出席要件)

第5条 生徒は、授業科目の単位を取得するためには、履修しようとする授業科目の授業時数の5分の4以上出席しなければならない。

校則抜粋

(欠席)

第13条 生徒は、疾病その他の理由により授業を欠席しようとする場合は、その理由を付した欠席届(別記第10号様式)を校長に提出しなければならない。この場合において、疾病による欠席が連続して7日以上にわたる場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、生徒が忌引、災害その他やむを得ない理由により授業に出席できない場合は、校長が別に定めるところにより、欠席の扱いとしない。

3 同一の教科において、30分以内の遅刻、早退又は一時退席を3回行った場合は、1回の欠席の扱いとする。

4 前項の規定にかかわらず、実習については、遅刻又は早退を行った場合は、原則として欠席の扱いとする。

(単位の認定方法)

第6条 授業科目の単位の認定は、前条の出席要件を満たしている者に対して筆記試験、論文、レポート、学習態度等により総合して認定するものとする。ただし、演習、実験、実習等の授業科目については、筆記試験を省略し、論文、レポート、出席状況又は学習態度によって認定することができる。

2 授業科目の成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる方法によって行うものとする。

(1) 成績の評価は、100点法をもって行う。

(2) 成績の評価が50点から100点までの生徒を認定とし、50点未満の生徒を不認定とする。

(3) 成績証明書及び学籍簿の記載は、次の表に掲げる標語をもって表示する。

判定		認定			不認定
評価	点数	100点~80点	79点~65点	64点~50点	49点~0点
	標語	優	良	可	不可

(技能審査成果の単位認定)

第7条 本校における技能審査の成果における単位認定の種類、対応科目、認定の単位数は、別表のとおりとする。この場合において、校長は、生徒が別表の資格の欄に掲げる技能審査に合格し、資格を取得した場合は、当該生徒からの申請に基づき、同表対応科目の欄に掲げる授業科目の単位に同表増加単位の欄に掲げる単位数を加えて認定することができる。

- 2 前項後段の認定を受けようとする生徒は、技能審査の成果の単位認定申請書（別記第2号様式）を校長に提出しなければならない。
- 3 第1項後段の規定により認定することができる増加単位数は、5単位を限度とし、在学中における受検により合格した資格に限り認定を行うものとする。
- 4 同一の種類技能審査で2つ以上の級等に合格した場合は、上位級の単位数を加算するものとする。
- 5 校長は、第1項後段の規定により単位の増加を認定する場合は、当該単位に係る成績の評価は行わない。
- 6 校長は、第1項後段の規定により単位の増加を認定した場合は、当該単位を卒業の認定に必要な単位に加算できるものとする。この場合において、当該認定に係る生徒の学業成績記録に増加単位数、資格の種類及び合格日を記載するものとする。

(研究科における単位認定の特例)

第8条 本校研究科における科目単位を本校農学科在籍時に取得した場合は、研究科の単位として、当該生徒からの申請に基づき、認定することができる。

- 2 前項の認定を受けようとする生徒は、単位認定申請書（別記第3号様式）を校長に提出しなければならない。
- 3 第1項の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績は農学科在籍時に取得した評価とする。

(再履修)

第9条 生徒は、単位の取得の認定が行われなかった授業科目について、単位を取得しようとする場合は、再履修実施願（別記第4号様式）を校長に提出し、再履修をしなければならない。

- 2 単位の取得の認定が行われなかった授業科目がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、評価を受けなければならない。
- 3 単位の取得の認定が行われなかった実習がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、実習を行った後に評価を受けなければならない。

(筆記試験)

第10条 本校の筆記試験は、生徒全員を対象に各学期末に行う定期試験及び授業科目の授業時間内で適宜な時期に行う臨時試験とするものとする。この場合において、実施日を少なくとも7日前に、生徒に通告するものとする。

- 2 所定の期日に病気、事故その他のやむを得ない事由で筆記試験を受験できなかった者に対しては、追試験を行うものとする。
- 3 前項の追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願（別記第5号様式）に、欠席届（別記第6号様式）及び医師の診断書、事故の証明書その他の欠席の理由を証明する書類を添えて、校長に提出しなければならない。

(受験上の注意)

第11条 筆記試験を受験する学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 生徒は、特別の指示がない限り、試験開始の5分前に所定の教室に入室すること。

- (2) 特に指定された場合は指定の座席において受験すること。
- (3) 受験に必要な物品以外は試験監督者の指示する場所に置くこと。
- (4) 受験中は筆記用具類の貸借をしないこと。
- (5) 試験開始後 30 分以上が経過しなければ退室してはならない。
- (6) 30 分以上遅刻した者は、原則として受験することができない。
- (7) 答案に学籍番号及び氏名の記載がない場合は無効になることがある。
- (8) 試験時間が終了したとき、又は終了前に答案を作成し終わったときは、特に指示がない限り、教卓上に提出し、又は試験監督者に直接手渡して、静かに退室すること。

(不正行為)

第 12 条 筆記試験の受験中に不正行為があった場合は、直ちに答案を回収し、当該不正行為を行った生徒に対して退室を命じる。この場合において、回収した答案は無効とする。

2 不正行為を行った生徒は、校則第 28 条に規定する懲戒の対象とする。

(補 則)

第 13 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
(千葉県農業大学校履修規程の廃止)
- 2 千葉県農業大学校履修規程は、廃止する。
附 則 (平成 26 年 3 月 7 日一部改正)
この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 4 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 5 この規定は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 6 この規定は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)

3 講義要項

(1) 教育課程表

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(研究科)(令和5年度)

令和5年度入学生(1年生)

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
教養科目	実用英語Ⅰ	2	30	○				
	実用英語Ⅱ	2	30			○		
	小計	4	60					
専門教育科目	必修科目	加工・商品開発演習	17	510			◎	
		農業経営実習	17	510			◎	
		農場指導実習	2	60			○	
		インターンシップ研修	3	90	○			
		インターンシップ基礎	2	30	○			
		情報処理	2	30		●		
		食品安全とリスク管理論	2	30				●
		フードシステム論	2	30	○			
		法人経営論	2	30			○	
		起業論	2	30			○	
		販売実践講座	2	30				●
		農業関係法	2	30		●		
		アグリビジネス論	2	30		●		
		キャリア形成講座	2	30	○			
	小計	59	1,470					
	選択科目8科目	共通科目講座	2	30			○	
		営農講座	2	30	○			
		生物工学	2	30		●		
		発酵・微生物学	2	30	○			
		農政時事	2	30			○	
		花き装飾論	2	30		●		
		生物資源利用論	2	30		●		
		園芸施設論	2	30	○			
		農業機械学	2	30				●
		家畜解剖学	2	30				●
		家畜衛生学	2	30		●		
		中小家畜論	2	30	○			
大家畜論		2	30				●	
小計	16以上	240以上						
専門合計		75以上	1,710以上					
専攻実習		22	660			◎		
研究成果(課題研究)		4	120			◎		
合計		105以上	2,550以上					

○・・・前期

●・・・後期

◎・・・通年

○講義は、1単位15時間

○実習・演習は、1単位30時間

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(研究科)(令和5年度)

令和4年度入学生(2年生)

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
教養科目	実用英語Ⅰ	2	30	○				
	実用英語Ⅱ	2	30			○		
	小計	4	60					
専門教育科目	必修科目	加工・商品開発演習	17	510			◎	
		農業経営実習	17	510			◎	
		農場指導実習	2	60			○	
		インターンシップ研修	3	90	○			
		インターンシップ基礎	2	30	○			
		情報処理	2	30	○			
		食品安全とリスク管理論	2	30				●
		フードシステム論	2	30	○			
		法人経営論	2	30			○	
		起業論	2	30			○	
		販売実践講座	2	30				●
		農業関係法	2	30		●		
		アグリビジネス論	2	30		●		
		キャリア形成講座	2	30	○			
	小計	59	1,470					
	選択科目8科目	共通科目講座	2	30			○	
		営農講座	2	30	○			
		生物工学	2	30		●		
		発酵・微生物学	2	30	○			
		農政時事	2	30			○	
		花き装飾論	2	30		●		
		生物資源利用論	2	30		●		
		園芸施設論	2	30		●		
		農業機械学	2	30				●
		家畜解剖学	2	30				●
		家畜衛生学	2	30		●		
		中小家畜論	2	30		●		
大家畜論		2	30				●	
小計	16以上	240以上						
専門合計		75以上	1,710以上					
専攻実習		22	660			◎		
研究成果(課題研究)		4	120			◎		
合計		105以上	2,550以上					

○・・・前期

●・・・後期

◎・・・通年

○講義は、1単位15時間

○実習・演習は、1単位30時間

(2) 時間割

令和5年度 研究科時間割表
前期

研究科1年					研究科2年					
I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	
9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	
専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		隔) インターンシップ基礎 (田村、外部講師(佐藤)) [研1講義室]		HR [4階]	月	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		農業経営実習 (山根・保坂・田村・外部講師) [4階会議室]		HR [4階]
		隔) 農業経営実習 (山根・保坂・田村・外部講師) [4階会議室]								
加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師)		火	火	加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		
隔) 専攻実習・課題研究 (各担当)(直売) [各専攻教室]					水	隔) 専攻実習・課題研究 (各担当)(直売) [各専攻教室]				
隔) 農業経営実習 (山根・保坂・外部講師)[4階]						隔) 農業経営実習 (山根・保坂・外部講師) [4階]				
キャリア形成講座 <税務> (岡見) [研1講義室]	実用英語 I (石橋) [研1講義室]	# 営農講座 (平野良) [研1講義室]	フードシステム論 (山崎) [研1講義室]	木	木	実用英語 II (石橋) [研2講義室]	起業論 (澤田) [研2講義室]	# 共通科目講座 <有機農業> (澤田) [研2講義室]	法人経営論 (平野良) [研2講義室]	
# 園芸施設論 (菅原) [研1講義室]	# 発酵・微生物学 (恵比須) [研1講義室]	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]				(就農・就職活動 専攻実習) [各専攻教室]	# 農政時事 (伊本) [研2講義室]	農指指導実習 (各担当) [各専攻教室]		

隔) 隔週実施

選択科目

後期

研究科1年					研究科2年					
I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	
9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	
農業経営実習 (山根・保坂・田村) [寮 集いの間]		専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		HR [4階]	月	農業経営実習 (山根・保坂・田村) [寮 集いの間]		専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		HR [4階]
加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師)		火	火	加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		加工・商品開発演習 (木内・藤井・吉田・本多・外部講師) [食品加工実験室・各専攻]		
農業経営実習 (山根・保坂・田村・外部講師) [4階会議室]					水	農業経営実習 (山根・保坂・田村・外部講師) [4階会議室]				
隔) 専攻実習・課題研究 (各担当)(直売) [各専攻教室]						隔) 専攻実習・課題研究 (各担当)(直売) [各専攻教室]				
# 花き装飾論 (笹原) [研1講義室]	アグリビジネス論 (山崎) [研1講義室]	# 生物資源利用 論(橋本) [研1講義室]	# 生物工学 (篠崎) [研1講義室]	木	木	# 農業機械学 (椿) [研2講義室]	食品安全とリスク 管理論 (成田・梅津) [研2講義室]	(食品安全とリスク 管理論 (成田・梅津) [研2講義室] 2、3回目のみ)	# 家畜解剖学 (唐仁原) [寮 101号室]	
			# 家畜衛生学 (岩淵) [第2講義室]			# 大家畜論 (新城) [研2講義室]				
情報処理 (野尻) [パソコン教室]	農業関係法 (大島) [研1講義室]	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		金	金	販売実践講座 (屋久) [研2講義室]		専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		

隔) 隔週実施

選択科目

(3) 研究科授業シラバス

ア 教養科目

授業科目 (履修区分)	実用英語 I (教養科目)	担当教員	石橋 喜代子
対象年次	研究科 1 年	期 別	令和 5 年度 前期
単 位 数	2 単位	時 間 数	3 0 時間
教育目標	<p>To learn English for use in real life. 日常生活で実際に使用できる基礎的な実用英語を学ぶ。 実社会におけるBusiness英語をToeicのテキストCDを使い、 Listening、writing、talkingを総合的に学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介、自分、家族、他の紹介を英語で表現。Business英語 (unit 1) 2 Identify places 身近な場所の表現。Business英語 (P.28、29) (unit 1) 3 Describe your house listening, Business英語 (P.30、31) (unit 2) 4 復習 (板書より全員がwriting) Business英語をlistening 5 Identify household (P. 32, 33) Business英語 (unit 2) 6 Compare houses長文読解 (P. 32, 33) Business英語 (unit 2) 7 Compare houses writing (P. 36) Business英語 (unit 2) 8 復習 (板書より全員がwriting) Business英語をlistening 9 Personal Posesstions (P. 44, 45) Business英語 (unit 2) 10 Talk about Posesstions (P. 46, 47) Business英語 (unit 3) 11 Talk about Posesstions listenning (P. 46, 47) Business英語 (unit 3) 12 Buy a present 身近なElectric productsを表現 Business英語 (unit 3) 13 復習 (板書より全員がwriting) Business英語をlistening 14 Pre test今までの総合的な確認 15 期末test 		
教科書 参考書	World English Second Edition		
成績評価の 方法	Test50点、授業の取り組み方と毎回の発表30点、 毎回板書によるTest20点		
備考	Business EnglishについてプリントとCDを使用 (Toeic参考書)		

授業科目 (履修区分)	実用英語Ⅱ (教養科目)	担当教員	石橋 喜代子
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 前期
単位数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	To learn English for use in real life. 日常生活で実際に使用できる実用英語を学ぶ。 実社会におけるBusiness英語をToeicのテキストCDを使いlistening, writing,talkingを総合的に学ぶ。		
授業内容	1 Daily Activities (身近な行動を表現) Business英語 (unit1) 2 Tell time (P.54~57) Business英語 (unit1) 3 Talk about Daily Activities (P.56~58) Business英語 (unit1) 4 復習 (板書により全員参加) Business英語 listeningで学ぶ 5 Talk about Daily Activities (P.58~59) Business英語 (unit2) 6 Talk about doing at school (P.60~61) Business英語 (unit3) 7 Describe a Dream (P.62 63) Business英語 (unit3) 8 Describe a Dream job (P.64) 自分の将来を英語で表現 Business英語 (unit3) 9 Getting there (P.66 67) 自己表現 Business英語 (unit3) 10 Talk about Daily Activities listening Business英語 (unit3) 11 Tour Route (P.70 71) 身近な交通手段を表現 Business英語 (unit3) 12 Record a Journey (P.74 75) 世界の旅にて世界を表現 Business英語 (unit4) 13 復習 (全員の板書writing) Business英語で学ぶlistening 14 pre test 今までの総合的な確認 15 期末test		
教科書 参考書	World English Second Edition		
成績評価の 方法	Test50点、授業の取り組み方と毎回の発表30点、 毎回板書によるTest20点		
備考	Business EnglishについてプリントとCDを使用 (Toeic参考書)		

イ 専門教育科目

(ア) 必須科目

授業科目 (履修区分)	加工・商品開発演習 (必修科目)	担当教員	木内美和、藤井雄樹 専攻教室担当教員、星野康人 松本隆志、今井由紀子 津田孝子、山下富士子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	17単位	時 間 数	510時間
教育目標	農畜産物の農産加工・調理技術、農畜産物栽培・飼育、食品衛生、商品化の実践を通して経営に結びつける。また6次産業化に向けた商品開発のプロセスを学ぶ。		
授業内容	<p>1 農産加工・調理に関する知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1)穀類・野菜・果実・畜産物の加工、調理</p> <p>(2)千葉県に伝わる伝統料理、加工品</p> <p>(3)商品化を想定した加工、調理、包装</p> <p>2 加工向け農畜産物の栽培管理技術の習得</p> <p>(1)加工用品種の栽培、飼育管理方法および加工特性</p> <p>3 商品化を想定した経営管理の実践</p> <p>(1) 市場調査、マーケティング手法</p> <p>(2) 原価計算、販売価格設定、販売方法</p> <p>(3) 加工施設の運営、衛生管理 (HACCP,5S)</p> <p>専攻教室で栽培、飼育している品目を材料として、チームごとに加工商品開発に向けた課題を設定し、商品開発のプロセスを学ぶ。</p>		
教科書 参考書	食品製造 実教出版、新食品成分表 東京法令出版 食品衛生責任者ハンドブック第3版 公益財団法人日本食品衛生協会		
成績評価 の方法	出席 (50%)、演習態度 (50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業経営実習 (必修科目)	担当教員	山根幹雄 保坂信久 田村 創
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	17単位	時 間 数	510時間
教育目標	<p>将来の農業経営者や農業法人の社員として必要な経営管理能力を養うため、観光ブルーベリー農園を中心とした農作物生産を通じて、ビジネス視点を持った実践的な経営感覚を体験する。</p> <p>また、法人運営の成長に必要なリーダーの役割や意思決定等について学習するとともに、自主的な運営による想像力、企画力、提案力、行動力、チームワーク力を養う。</p>		
授業内容	<p>模擬会社の運営を通じて次の内容を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 組織運営と経営者の役割について 2 農業法人の社会的役割と成長管理について 3 ブルーベリー、農作物等の生産管理について 4 リーダーとしての労務管理 5 直売運営のための仕入管理、価格設定について 6 直売、観光農園等による販売管理 7 農産物のマーケティング戦略 8 財務諸表作成および財務管理 9 農業のグローバル化とグリーンツーリズム 10 農業時事、外部環境の変化に伴う農業経営者の在り方 <p>以上の項目について、生産・仕入・販売を通じて実践的な法人運営を学習するとともに、6次産業化、多角化経営についてのノウハウを養う。</p>		
教科書 参考書	適宜、資料を配布する。		
成績評価 の方法	授業への参加姿勢（出席状況およびグループワークでの積極性など）50%、積極性・自主的な活動50%で判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農場指導実習 (必修科目)	担当教員	各専攻教員 (木内美和)
対象年次	研究科2年生	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
教育目標	<p>専門的な農業技術の深化を目的として、所属する各専攻において、自らの研究を進めるとともに、農学科生の農場実習を指導する。</p> <p>取り組んでいる研究課題や専攻実習について、下級生を指導することにより、地域のリーダーあるいは指導者としての資質を醸成する。</p> <p>上級生として、下級生を教える責任意識、教えることのやりがい、協調性を養うことで、「自ら学び」、「自ら考える」確かな学力を育成する。</p>		
授業内容	<p>15回の授業を通じて、次の育成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生産・飼育技術の習得や加工開発等の技術向上並びに農業に関する実験・調査研究に取り組み、課題解決能力を育成する。 2 さらに、農学科生の実習においてメンターとしての役割を果たし、リーダー、指導者としての資質を醸成する。 		
教科書 参考書	特になし		
成績評価 の方法	所属する専攻教室の担当教員が授業への取り組み姿勢(70%)や後輩指導の積極性(30%)について総合的に判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	インターンシップ研修 (必修科目)	担当教員	田村 創、保坂信久 木内美和、藤井雄樹
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	自己の関心の深い職場でのインターンシップ研修を通し、具体的な業務内容や必要とされる能力、コミュニケーションやマナーについて学ぶ。また、仕事現場での体験を通して自己の現在の能力や適性を分析することにより、今後の就職活動や就業に向けて職業意識の向上を図る。		
授業内容	<p>1 インターンシップ研修 10日間の実践研修を通し、具体的な業務内容、必要とされる能力、コミュニケーション、マナー等を学習する。</p> <p>2 研修結果のまとめ、就職活動・就業に向けたビジョン作成 研修報告書の作成（8月～9月）、成果発表会（10月）で発表を行う。これらを通して研修成果をまとめ、現在の自分の能力や適性等について分析を進めるとともに、就職活動・就業に向けた自己目標を設定する。 成果集を発刊する。</p>		
教科書 参考書	特になし		
成績評価 の方法	研修先からの総評、出席日数、研修報告書、成果発表会における発表内容により評価する		
備 考			

授業科目 (履修区分)	インターンシップ基礎 (必修科目)	担当教員	田村 創 外部講師 (佐藤真理子)
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	広い視野と豊かな人間性の形成、高度な専門的知識・技術の習得、地域社会の中核的リーダーとしての資質と実践力を養うことを基本に、就業意識の向上を図る。		
授業内容	<p>3、4、9～14は外部講師 (数字囲み: <input type="checkbox"/>)</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2 自己分析、就職活動について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3 心構え、企業研究・エントリーシートの作成について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 4 電話対応等のビジネスマナー</p> <p>5 個人面談</p> <p>6 企業研究・エントリーシートの作成</p> <p>7 研修先発表、情報交換</p> <p>8 エントリーシートの作成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 9 社会で求められる基礎的コミュニケーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 10 〃</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 11 社会で求められる基礎的ビジネスマナー</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 12 〃</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 13 仕事の基本 (仕事を進める上で必要な力、考え方等)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 14 〃</p> <p>15 インターンシップ基礎のまとめ</p>		
教科書 参考書	<p>ビジネスマナーの基本講座</p> <p>その他作成資料</p>		
成績評価 の方法	出席日数、授業態度、研修先との対応		
備 考			

授業科目 (履修区分)	情報処理 (必修科目)	担当教員	野尻 八千代
対象年次	研究科 1年	期別	令和5年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	<p>適切にデータ活用するための情報リテラシー（情報活用能力）技術習得を目指す。</p> <p>Office216 を使用し複合的な資料作成・JIMDO でWEB（ホームページ）を使った商品案内や情報の提供など、農業経営、農業関連産業においてより実践に近い形でアプリケーションの操作方法を身につける。</p>		
授業内容	<p>Microsoft Office 2016 (Word, Excel, PowerPoint) の活用方法を実践に近い形で学習する。</p> <p>1回 Word：段落の概念（文字の配置・インデント・行間・固定値）</p> <p>2回 Word：タブとリーダー（タブ設定・リーダー線）</p> <p>3回 Word：図表の配置（表の作成と編集・文字の折り返し）</p> <p>4回 Excel：数式と計算（四則演算・セル参照・オートSUM）</p> <p>5回 Excel：表示形式と関数（表示形式・MIN・MAX）</p> <p>6回 Excel：セルの参照（相対参照・複合参照・絶対参照）</p> <p>7回 Excel：グラフ（作成と編集・データソース編集追加）</p> <p>8回 Excel：データベース機能（並べ替え・フィルタ・小計）</p> <p>9回 Excel：関数（ROUND・IF・COUNT・VLOOKUP）</p> <p>10回 PowerPoint：情報デザインから効果的なプレゼンを考える</p> <p>11回 PowerPoint：アニメーションを利用した情報表現</p> <p>12回 Word と Excel を使用した複合的な資料の作成</p> <p>13回 JIMDO：ホームページ作成</p> <p>14回 JIMDO：ブログや内容の更新・資料の登録など</p> <p>15回 課題資料の作成（期末試験）</p>		
教科書 参考書	授業時にプリント資料を配布して、教材とする。		
成績評価 の方法	実技試験（100％）作成したHPへ課題資料のアップロード		
備考	山武校2階パソコン室にて講義実施		

授業科目 (履修区分)	食品安全とリスク管理論 (必修科目)	担当教員	成田 弥土里・梅津 国英
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>食品は本来安全であること。それは食品を生産する者として、最低限守るべき責任である。</p> <p>本授業では、HACCP・GAP・SDGsをベースに、食品安全・リスク管理についてアクティブ・ラーニングで授業を行う。これまで学んだ知識や経験と共に、各自の想像力・思考力・アイデアを活かし、分析力の向上を狙う。基本と本質を理解し、実践を通して、HACCP・GAP・SDGsを探究し、経営ツールとして活かす捉え方・考え方を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>1 ガイダンス この授業の目的・目標／安全安心とは何か／食品安全とGAPとの関連／流通業界（マーケット）が求めるGAP・HACCP</p> <p>2 フードチェーンで考えるHACCP 食品衛生法の改正とHACCPの制度化を知る／食中毒・食物アレルギー・食品表示について／GAPとHACCPの考え方</p> <p>3 HACCPの考え方を取り入れた衛生管理を理解する 危害要因分析（物理的・化学的・生物的）／一般衛生管理</p> <p>4 小規模な食品事業者をイメージしたHACCPの実践 作業行程の検証／危害要因をイメージする／衛生管理計画を検討する</p> <p>5 HACCP関係書類 作成演習 衛生管理計画や記録帳票などを実際に作成する</p> <p>6 From Farm to Tableから考えるGAP GAPでの一般的衛生管理／GAPの復習／グループ（団体）で取り組むGAPについて</p> <p>7 経営で活かすために理解する 国際水準GAPガイドラインと各種GAP認証を検証する</p> <p>8 現場でのリスクマネジメント 5Sの効果／リスク分析と評価</p> <p>9 GAPからSDGsを捉える 普段自分達が行っている作業からSDGs（持続可能な開発目標）を考察し、持続可能な農業の取り組みを探究する</p> <p>10 現場でのグループワーク -5S・HACCP的衛生管理とリスク分析-① 校内の作業場に於いて、現状分析を行う</p> <p>11～13 現場でのグループワーク -5S・HACCP的衛生管理とリスク分析-② 現状分析した結果をグループで話し合い、意見をまとめ、発表資料を作成する</p>		

	<p>14 現場でのグループワーク 発表</p> <p>15 総括—HACCP・GAP・SDGsを経営に活かす</p> <p>＊現場でのグループワークは、作業指示書を配布する。 ＊14回目のグループ毎の発表後に、各グループ案をシェアする時間を設ける。</p>
教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・GLOBALG. A. P. 「管理点と適合基準」 5. 2版 ・食品安全検定テキスト 初級 第2版 (中央法規出版 / 2019年 / 2,200円) <p>他、授業時に適宜プリントを配布する。</p>
成績評価 の方法	<p>授業内での課題および期末考査レポート、授業への参加姿勢、グループワークでの積極度により評価を行う。尚、評価配分は下記の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での課題：20% ・期末考査レポート：50% ・授業への参加姿勢およびグループワークでの積極度：30%
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、農学科の農業生産工程管理論で配付・購入したものを使用する。 ・配布資料が多いため、資料を収納するファイルを各自で用意すること。

授業科目 (履修区分)	フードシステム論 (必須科目)	担当教員	山崎 政行
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>フードシステムとは、食料の生産から消費に至る全課程のことである。その過程は、生産地の事情や流通のグローバル化、食料消費の変化などから近年大きな変貌を遂げている。</p> <p>本授業は、主要な食料の生産と流通の仕組み、日々変わっていくフードシステムの実態について理解することを目的とする。授業を通して、研究生が将来のフィールドでフードシステムについて自ら考えうる能力を習得することを旨とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、食料の生産から消費に至る過程を考える 2 野菜・果実の生産と流通 3 食肉・鶏卵の生産と流通 4 米・麦の生産と流通 5 生乳・乳製品の生産と流通 6 食品の輸出入の状況 7 食料消費の変化 8 フードシステムに関する課題発表とディスカッション 9 フードシステムを担う（1）生産者と生産者組織 10 フードシステムを担う（2）卸売業者と仲卸業者 11 フードシステムを担う（3）食品製造業者 12 フードシステムを担う（4）小売店と飲食業 13 6次産業化の意義と地域活性化 14 フードシステムの変化と展望 15 試験 		
教科書 参考書	<p>教科書は使用せず、授業時に適宜プリントを配付する。</p> <p>参考図書：「フードチェーンと地域再生」斎藤修監修（農林統計出版/2014年）、「食料経済第5版」高橋正郎監修（オーム社/2016年）。</p>		
成績評価 の方法	<p>試験結果（50%）、課題提出及びディスカッション（30%）、授業への参加や取組姿勢（20%）から総合的に評価する。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業終了後に「授業で学びたいこと」を提出、第14回授業終了後に「授業で学んだこと」の提出を受け、取組姿勢の一部として評価する。 ・第2回目の授業時に、第8回目の授業時発表の課題を示す。 		

授業科目 (履修区分)	法人経営論 (必修科目)	担当教員	平野 良樹
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	法人を経営するうえで、法令や行政手続きに直面することがしばしばある。そこで、与えられた事案を把握分析し、ポケット六法を用いて解決することによって、法令や行政手続きになじみ、法人を経営する能力を身に付ける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 法人の種類 2 法人の機関 3 法人の設立・運営 4 株式会社の設立 5 株主総会の運営 6 会社の組織、役員及び従業員の異同 7 契約書類の意義及び作成方法 8 行政庁に対する申請及び届出等 9 法令遵守（コンプライアンス）の重要性 10 労働組合について 11 労働契約、賃金等に関する制度 12 知的財産権の種類等 13 外国人を雇い入れる場合について 1 採用方法 14 外国人を雇い入れる場合について 2 雇用方法など 15 期末テスト 		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席回数が規定に満たなければ筆記試験を受けられない。 筆記試験（80%）、授業態度（20%）、50点未満は不可とする。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	起業論 (必修科目)	担当教員	澤田 博光
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>カーボンニュートラルという標語に代表されるように地球環境問題への対応は、グローバル社会の大きな課題になっています。SDG s (持続可能な開発目標) への対応は、現状を打破する新たな経済発展と地球環境問題などの課題を解決する新たな産業・社会構造の両立であり、私たち個人から社会全体が大きな目標となっています。SDG s を達成するためには、農業、漁業や林業を中心とした第一次産業とそれを支える第二次産業、第三次産業において、新たな価値を生み出すビジネス構造を創造し、これまでの経済・産業構造を変革することが求められています。</p> <p>新たなビジネス構造は、起業によって創成されます。起業とは、社会・経済環境の中から事業機会を認識し、自らの信用や能力によって経営資源を調達し、財やサービスの供給システムを構築することとしていくプロセスです。従来の起業は、既存事業(しくみ)の延長線上で、新たなに成長する市場で事業を展開することに注目が集まりました。これからの起業は、既存の産業の枠を超えた新たな産業の括りで、新たな事業を創り出すことが重要です。</p> <p>本授業では、起業までの一連のプロセスを理解し、起業家に必要な意志の強さや粘り強さ、事業に関係する組織の構成員や人脈など起業する上で重要な要素を学びます。また、起業を成功に導く要素を学び、その要素についての演習を行うことで、ひとり一人が起業家となるための素養を身につける授業を展開します。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (授業内容の説明、教員自己紹介) 2 起業活動とは何か 3 起業活動のフレームワーク 4 事業機会の発生と認識 5 経営資源と事業機会 6 創業時の資金調達 7 創業時のパートナーの選び方/人材確保・草の根エンジェル 8 供給システムのしくみと供給システムの構築 9 起業のための事業収支計画 (シミュレーション) 10 起業活動のダイナミズム 11 ダイナミズムを支える起業家の資質 12 Society5.0 と DX (デジタルトランスフォーメーション) 13 起業のための要件 (ビジネス要件定義) 14 アグリカルチャと起業 15 まとめ <p>※1 : 第10回授業より学生によるプレゼンテーションとディベートの</p>		

	<p>時間を設営する。</p> <p>※2：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。</p> <p>※3：授業中に小問題を出題することがある。講義ノートと合わせて提出を求める。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に授業内容に相当する教科書の内容を理解する。 ・プレゼンテーション（発表）までに、発表用資料を用意し、提出する <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に出题した小問題に解答し、提出する。 ・講義ノートに当日の授業内容の振り返りを記入して提出する。 <p>※講義ノート及び小問題の解答は、Google Classroomで提出する。</p>
教科書	高橋徳行著『新・起業学入門』経済産業調査会、平成19年（購入）
参考書	授業の中で必要に応じて指示する
成績評価の方法	<p>授業の参加（40%）＋課題レポート提出（60%）</p> <p>※1：講義ノートの提出を持って授業への参加とする。</p> <p>※2：プレゼンテーション及びディベートにより課題レポートを代替する。</p>
備考	

授業科目 (履修区分)	販売実践講座 (必修科目)	担当教員	屋久大介
対象年次	研究科2年	期別	令和5年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	<p>実際の生産者として、また非農家からの新規就農者としての販路の確保や販売の促進ついて生の声を伝える。現状抱えている問題点や販路拡大の工夫を教えるだけでなく、学生主体に議論を活発に行い、より実践的な販売に対する思考や想定する力を培う。</p> <p>海外派遣実習の経験から得た海外での農業生産、販売知識を伝え、目まぐるしく変化する販売市場に対応できる柔軟かつグローバルな思考を培う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 我が家の農業経営、販売実績 2 近隣農家の販売スタイル 3 欧米の農業 4 欧米の農業と販売 5 グループディスカッション 6 直売所での価格設定、販売戦略 7 小売店出荷と市場出荷 8 中間試験 9 有名農業法人の販売戦略 事例1 10 有名農業法人の販売戦略 事例2 11 付加価値について 12 輸出と輸入 13 販売市場のこれから 14 グループディスカッション 15 後期試験 (販売戦略プレゼンテーション) 		
教科書 参考書	講師配布テキスト		
成績評価 の方法	中間試験 (40%)、最終試験 (40%)、授業参加態度 (20%) から総合的に評価する。		
備考	授業の進行、学生からの要望で適宜授業内容を若干変更する		

授業科目 (履修区分)	農業関係法 (必修科目)	担当教員	大島 大
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業関係の法律や農業政策について、その歴史的背景や変遷を踏まえ、それらを体系的に整理することにより、現在の法制度、政策の理解を深め、また問題点を検討する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 農地改革 2 農地法（1）農業生産法人制度 3 農業基本法 4 農地法（2）3条、賃借権保護、小作料統制 5 農振法（都市計画法・生産緑地法・農地法4条） 6 農地の流動化（1）自作農主義・耕作者主義 7 農地の流動化（2）借地による流動化の促進 8 食料・農業・農村基本法 9 農業経営基盤強化促進法 10 農地法（3）リース特区、平成21年改正 11 米政策 12 WTO体制下の農業政策 13 農業金融制度 14 農業の税金 15 試験 		
教科書 参考書	使用しません。毎授業時にレジュメを配布します。		
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）評価試験2回（概ね80%）により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	アグリビジネス論 (必須科目)	担当教員	山崎 政行
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>アグリビジネスは、農業及びそれを取り巻く周辺ビジネスのことを指すものであり、その範囲は広い。</p> <p>本授業は、我が国のアグリビジネスについて、農業経営体を中心に経営体を支援する組織との関係を含めた実態を理解することを目的とする。授業における事例に関する考察や議論を通して、研究生が将来関与するアグリビジネスについて、自ら考えうる能力を習得することを目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、アグリビジネスの目指す方向を考える 2 事例Ⅰ－第三者継承による就農の実態[水稻] 3 事例Ⅰに関する考察と議論 4 事例Ⅱ－6次産業化を展開するアグリビジネス[米+酪農] 5 事例Ⅱに関する考察と議論 6 事例Ⅲ－地域の酪農基盤の維持を目指す大規模法人[酪農] 7 事例Ⅲに関する考察と議論 8 グループワーク－課題検討 9 グループワーク－課題発表 10 融資現場から見たアグリビジネス[養鶏を中心に] 11 事例Ⅳ－牛を担保に資金を借りてビジネス拡大[肉用牛] 12 事例Ⅳに関する考察と議論 13 大型商談会に集うアグリビジネス[果実等の輸出を中心に] 14 振り返りとまとめ 15 試験 		
教科書 参考書	<p>教科書は使用せず、授業時に適宜プリントを配付する。</p> <p>関心のある情報をネット・新聞などから多く入手しておくように。</p>		
成績評価 の方法	<p>試験結果 (50%)、課題提出及びグループワーク (30%)、授業への参加や取組姿勢 (20%) から総合的に評価する。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業終了後に「授業で学びたいこと」を提出、第14回授業終了後に「授業で学んだこと」の提出を受け、取組姿勢の一部として評価する。 ・第2回目の授業時に、第8回目のグループワークの課題を示す。 ・第10回、第13回を犬田が担当し、それ以外を山崎が担当する。 		

授業科目 (履修区分)	キャリア形成講座 〈税務基礎〉(必修科目)	担当教員	岡見和義
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>農業経営と会計制度の関連性理解を深めるとともに、学生から社会人になると様々な税金に直面することになるため、税金に対し戸惑うことのないよう知識を事前に身に付ける。</p> <p>確定申告や年末調整等を実務的な面から、具体的な税務の話や税金に関する書類の現物に接し、国民の三大義務の一つである納税義務の理解を深める。</p>		
授業内容	<p>(授業の具体的内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業経営と会計制度について 2 確定申告のあらまし 3 所得税における10種類の所得 4 事業所得について(農業は事業所得) 5 農業経営者の帳簿記入のしかた 6 給与所得について(従業員を雇った場合) 7 14種の所得控除 8 生命保険料控除、地震保険料控除、医療費控除 9 年末調整 10 所得税の課税標準と税額の計算のしかた 11 消費税の仕組み 12 消費税の一般課税とは 13 消費税の簡易課税とは 14 農業経営を法人化した場合の税務 15 期末評価 		
教科書 参考書	適宜税務署又は国税庁発行のプリントや冊子を準備する		
成績評価 の方法	講義の受け方(50%)や試験結果(50%)等を総合的に勘案		
備 考			

(イ) 選択科目

授業科目 (履修区分)	共通科目講座 <有機農業> (選択科目)	担当教員	澤田 博光
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>地球環境問題が深刻な状況を迎える中で、SDGs（持続可能な社会の開発目標）では具体的な17項目の持続可能な社会へのあり方が求められています。第一次産業を代表する農業では、生活者の健康志向や食の安全、安心への関心が高まる一方で、少子高齢化が加速する中での農業就労者の高齢化と労働就労人口の減少は大きな課題となっています。日本では、平成18年に策定された「有機農業推進法」に基づいて持続可能な農業生産を行うための「循環型農業」の実現が求められています。循環型農業とは、人間中心の社会が求める本来の農業の在り方である有機農業を取り戻すことであり、「食と人々の融和」「有機農業と科学技術の融和」生産者と生活者をつなげる「人と人の融和」という3つの目標を実現することです。本授業では、3つの目標を実現するための考え方や有機農業に関する科学技術要素について講義を展開します。授業では、まず日本の有機農業のあるべき姿について、これまでの歴史や課題、有機農法による循環型農業への取組みについて学びます。また、有機農業の実践農家の事例から有機農業の課題と解決に向けた取組みについて学習し、有機生産システムを実現する科学技術について学びます。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介） 2 有機農業の定義／有機農業を取り巻く状況 3 有機農業のこれまでの歴史 4 有機農業の科学的研究 5 循環型農業を促すヒント 6 有機農産物の品質（ほんとうに美味しいか） 7 農産物の新しい見方 8 食育と循環教育 9 「有機農業の科学と技術」に学ぶ 10 有機農業の実践農家から学ぶ（1） 11 有機農業の実践農家から学ぶ（2） 12 果菜類への有機液肥の利用 13 葉菜類への有機液肥の利用 14 低炭素社会の実現に向けた有機農業 15 持続可能な社会に適した有機農業/まとめ <p>※1：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。</p>		

	<p>※2：授業中に課題レポートを出題することがある。講義ノートと合わせて提出を求める。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に授業内容に相当する教科書の内容を理解する。 <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義ノートに当日の授業内容の振り返りを記入して提出する。 ・授業中に課題レポートがある場合は期日までに提出する。 ・講義ノート及び課題レポートは、Google Classroom で提出する。
教科書	<p>中野明正著 インテグレート有機農業論 誠文堂新光社 ※各自で電子書籍を購入のこと（中古の市販本あり）</p>
参考書	<p>東京農業大学「現代農学概論」編集委員会編 現代農学概論 西村和雄著 有機農業原論 七つ森書館 久松達央著 キレイゴトぬきの農業論 朝倉書店 ※内容は授業で説明するが、一読することをお勧めする</p>
成績評価の方法	<p>授業の参加（40%）＋期末試験（60%） ※1：講義ノートの提出を持って授業への参加とする。 ※2：前期末に期末試験を実施する。</p>
備考	

授業科目 (履修区分)	営農講座 (選択科目)	担当教員	平野 良樹
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	規制緩和に伴い、近年、農業を営む会社法人の事例が増してきている。そこで、会社の設立をシミュレーションすることによって会社が農業を経営するために必要な知識を身につけ、あらゆる規模の農業経営に関する能力を養うことを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 農業経営の特殊性 2 農業協同組合について 3 会社による農業経営のメリット・デメリット 4 農業を目的とする株式会社の設立 5 株式会社の定款の作成 6 定款の認証の手続き 7 会社の設立登記申請書、添付書類の作成 8 個人事業主と法人の税金の違い 9 会社の経営に必要な法令（経済法等） 10 会社の就業規則について 11 社会保険と労働保険について 12 種苗法等の農業に関連する知的財産権について 13 外国人技能実習制度について 14 農地所有適格法人について 15 期末試験 		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況・聴講態度・期末試験により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	生物工学 (選択科目)	担当教員	篠崎 善仁
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>生命体の有する機能を合理的に利用する技術である生物工学について学習する。培養物にあった培養培地条件を考案し培養苗を作出できる能力を育成する。</p> <p>培養した植物を実際の栽培に活用できる能力と態度を習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生物工学の定義 2 生物の培養に必要な培地条件、 3 培養条件 4 培養の手法 無菌播種 5 器官培養 6 胚培養 7 培養過程と培養ステージ 8 発芽条件、発芽生理 9 分化全能性、葉 芽 根の分化 10 増殖、大量増殖方法 11 順化方法、手順 12 遺伝子 の分析 13 組み替え 遺伝子導入 14 生物工学の応用 15 総括、期末考査 		
教科書 参考書	<p>植物の育種学 日向康吉著 朝倉書店</p> <p>植物組織培養の世界 樋口春三監修 柴田ハリオ</p>		
成績評価 の方法	<p>期末試験とレポート3回で評価する。</p>		
備 考			

授業科目 (履修区分)	発酵・微生物学 (選択科目)	担当教員	恵比須 省吾
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>微生物の働きは多岐に渡り、我々にとって極めて重要な存在である。発酵食品は、古くから世界中で生産され利用されている。バイオテクノロジーの発達により、微生物を用いた有用物質の生産も盛んに行われ、人類の生活を大きく変えつつある。</p> <p>それら微生物の基礎から応用を紹介し、農業・食品分野での微生物の働きを理解し、今後の活動に役立てることを目的とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 担当教員の紹介、今後の講義内容の説明など 2 微生物の基礎（微生物の定義、種類、働きなど） 3 発酵と腐敗について（違いと働く微生物） 4 タンパク質とアミノ酸について、小テスト 5 発酵食品での微生物の役割について 6 醤油醸造について－1（原料処理～仕込） 7 醤油醸造について－2（製成～製品化）、レポート 8 微生物の構造について 9 微生物の遺伝子について、小テスト 10 微生物を用いたバイオテクノロジー－1（大腸菌の活用） 11 微生物を用いたバイオテクノロジー－2（バチルス菌の活用） 12 病原菌の基礎 13 ウイルスとファージについて、小テスト 14 発酵と微生物のまとめ、レポート 15 評価試験 		
教科書 参考書	<p>「発酵検定公式テキスト」 株式会社 実業之日本社 岩野裕一 著</p> <p>「図でよくわかる発酵のきほん」 誠文堂新光社 舘博 著</p>		
成績評価 の方法	<p>小テスト（3回）、レポート（2回）、期末試験を実施する 評価試験40%小テスト30%レポート30%</p>		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農政時事 (選択科目)	担当教員	伊本 克宜
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	現在、食と農は数十年に一度の大転換期を迎えている。それを受け、基本法見直しや食料安保法案などの動き。農業白書や直近の農政課題の知識習得を目指す。毎週の時事問題も取り上げ、農業問題との関連も考える。ニュース話題も取り上げ生徒参加型で行う。		
授業内容	<p>4月</p> <p>◎農政時事とは何か・キーワード「国産シフト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回食料・農業 農政時事とらえ方と情報整理法、課題図書紹介 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回 ウクライナ等ニュース解説 人口減少など食と農に関わる社会問題も大局的に把握 <p>6月</p> <p>◎令和5年農業白書から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回 白書特集「食料安保」の内容と狙い・ 4回 自給率と国際問題・5回 農業生産構造 <p>7月</p> <p>◎基本法見直し・6回 最近の農政課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7回「みどり戦略SDGs等食トレンド・8回 食品業界・9回米麦 園芸・10回畜酪 <ul style="list-style-type: none"> ・11回フードテックその他新たな動き ・12回マーケティング動向 <p>◎農政と政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13回 政治の仕組みと農林議員、農政への反映 ・14回 国内外の政治見通し 米中対立と農政 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終15回 参考課題図書引用を含め、「農政時事」講義との絡みでレポート「どうする食と農～『2030年の私』」を提出 ※自身の経営、物の見方にご生かすか課題整理 		
教科書 参考書	<p>「ルポ 食が壊れる」(堤未果、文春新書)</p> <p>「天地の防人 食農大転換と共創社会」(伊本克宜、ベストブック)</p> <p>「未来の年表 業界大変化」(河合雅司、講談社現代新書)</p>		
成績評価の方法	レポート提出の上で評価。最大ポイントは、講義内容を踏まえ自分の考えが事実や具体的数字の裏付けを踏まえ反映できているのか		
備 考			

授業科目 (履修区分)	花き装飾論 (選択科目)	担当教員	笹原 由里
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	花き装飾の理論を知り、デザイン面や用途に応じた、花き生産の需要を学ぶ。フラワーアレンジの装飾技術を学び、農業経営者や園芸家としての幅広い教養と感性を磨く。 また、花き装飾を通し、他国の文化を学ぶ。		
授業内容	1 花き装飾の歴史とマーケットリサーチ 2 花き装飾総論 3 基本のスタイルを学ぶ①・・・三方見のデザインⅠ・・・解説 4 基本のスタイルを学ぶ②・・・三方見のデザインⅡ・・・実技 5 基本のスタイルを学ぶ③・・・四方見のデザインⅠ・・・解説 6 基本のスタイルを学ぶ④・・・四方見のデザインⅡ・・・実技 7 花き装飾の色彩と花の形態によるデザイン 8 中間評価 評価試験1 9 ヨーロピアンデザインⅠ・・・実技 10 ヨーロピアンデザインⅡ 11 クリスマス文化にから学ぶ花き装飾Ⅰ・・・解説・実技 12 クリスマス文化にから学ぶ花き装飾Ⅱ・・・リース・実技 13 ブライダルブーケから学ぶ花き装飾・・・実技 14 全体評価 評価試験2 15 それぞれの専門分野における花き装飾の可能性とまとめ		
教科書 参考書	フラワーデザイナー資格検定試験テキスト (社 日本フラワーデザイナー協会編) フラワーズインスタイル (誠文堂新光社) 造形要素と度合い (六耀社)		
成績評価 の方法	評価試験2回により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	生物資源利用論 (選択科目)	担当教員	橋本 詳平
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	<p>農林業における生物資源(バイオマス)の有効利用を図るためには、地域資源情報の評価や循環利用過程での廃棄物処理、再利用、リサイクルなどの概念を理解する必要がある。</p> <p>本教科では、地域生物資源の現状、生物資源の再資源化やエネルギー利用、廃棄物の処理、環境との係わりなどについて学習し、生物資源の有効利用と環境保全への理解を深める。</p>		
授業内容	<p>本講義では、最初の3回で、生物資源(バイオマス)の概念とその利用意義を理解するための基礎知識を解説する。その後、生物資源の個別の利用技術について解説する。</p> <p>講義は、パワーポイントとプロジェクターを使用したスクリーン投影方式を中心に実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生物資源とは？特に農地から発生する未利用生物資源について解説。 2 今、なぜバイオマスか？①地球温暖化と生物資源有効利用とのかかわりについて 3 今、なぜバイオマスか？②再生可能エネルギーとカーボンニュートラル 4 生物資源の農業利用：堆肥化 5 生物資源のバイオ燃料利用①ガソリンに替わる燃料：バイオエタノール 6 生物資源のバイオ燃料利用②軽油に替わる燃料：バイオディーゼル 資源作物：バイオ燃料の原料用作物 7 生物資源のエネルギー利用：メタン発酵で得られるバイオガス 8 メタン発酵後の残渣(メタン消化液)の農業利用 9 木質バイオマスのエネルギー利用①木質ペレットなどの木質燃料 10 木質バイオマスのエネルギー利用②種々の再資源炭 11 生物資源を利用するための収集、運搬について 12 生物資源有効利用①バイオマスプラスチックは環境にやさしいか？ 13 生物資源有効利用②エコフィードは食料自給率を上げるか？ 14 生物資源を有効利用するバイオマスタウンについて 15 期末試験 		
教科書 参考書	パワーポイントスライドのプリントを授業前に配布する		
成績評価 の方法	<p>小テスト、期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦期末試験：60% ◦授業中に実施する小テスト：10% ◦授業への取り組み姿勢：30% 		
備 考	参考図書「バイオマスエネルギー」(森北出版株式会社/2009年)		

授業科目 (履修区分)	園芸施設論 (選択科目)	担当教員	菅原 諒一
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	園芸作物の環境反応に関する事項並びに施設園芸に特有な栽培管理、環境管理および作業管理に関する事項、さらには施設園芸の最新技術の動向を理解する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 成績評価、単位認定、参考図書、受講の注意事項について説明する。 講義のねらいを理解する。 2 施設内環境の特徴 作物栽培を行う上での施設の効果及び問題点を理解する。 3 園芸施設関連用語 「施設」、「栽培施設」、「温室」、「ハウス」等の用語を理解する。 4 わが国における施設園芸の現況 耕地面積、農業総産出額、農地面積等を理解する。 5 施設栽培収穫量・作付面積 園芸作物の収穫量、作付面積に対する施設栽培収穫量、施設面積の比率を理解する。 6 園芸施設における石油エネルギー及びプラスチック使用量 暖房燃料、農業用資材の原料を学びその使用に伴う環境問題を理解する。 7 施設園芸技術の新展開及びスマート農業 農園芸業の新しい可能性の提供、生活環境改善を理解する。スマート農業の活用を理解する。 8 園芸植物の生理・生態特性（1）呼吸 呼吸のはたらき、環境の影響を理解する。 9 園芸植物の生理・生態特性（2）光合成 光合成のはたらき、光合成速度に及ぼす環境要素等を理解する。 10 園芸植物の生理・生態特性（3）蒸散 蒸散のはたらき、蒸散に影響を及ぼす環境要素を理解する。 11 園芸植物の生理・生態特性（4）成長 栄養成長、生殖成長、転流、養分欠乏症と生理障害等について理解する。 12 園芸植物の生理・生態特性（5）光/温度形態形成 発芽や花成のしくみを理解する。 13 園芸施設の物理環境調節（1）暖房・保温 暖房方式を学び各種暖房方式の特徴を理解する。保温被覆資材を理解する。 14 園芸施設の物理環境調節（2）換気・冷房 換気方式とその特徴及び冷房方式とその特徴を理解する。 15 期末考査期末試験を実施し学習習熟度を測る。 		
教科書 参考書	授業時に適宜プリントを配布する		
成績評価 の方法	レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 ・期末考査50% ・授業への参加や取組30% ・授業中に実施するレポート20%		
備 考	参考図書「最新施設園芸学」(朝倉書店/2008)		

授業科目 (履修区分)	農業機械学 (選択科目)	担当教員	椿 正明
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>農業機械の基礎的な構造や特性について理解を深め、安全かつ効率的な農作業の知識・技術の習得を目標にする。</p> <p>各種の作業に利用されている乗用トラクタの基本的な構造・機能を学ぶとともに、実技を通じ運転方法や作業方法の習得を図る。</p> <p>また、点検・整備の方法やスマート農機等の高性能農機に関する知識・実用性についても理解を深め、農作業や農業経営の改善につながる内容とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 農業機械化の意義と課題 2 農業機械の利用と現状 3 農業機械と安全作業 4 トラクタの構造 5 トラクタの操作と安全作業 6 燃料と潤滑油 7 原動機の構造 8 電動機、伝動装置 9 耕うん整地用機械の種類 10 耕うん整地用機械の構造と操作 11 各種作業機の構造と利用 (稲作用機械、野菜・畑作用機械) 12 各種作業機の構造と利用 (飼料作物用機械、防除用機械等) 13 スマート農業の展開、農業機械の効率的利用 14 試験 15 試験解説とまとめ 		
教科書 参考書	農業機械の構造と利用 農山漁村文化協会		
成績評価 の方法	試験結果 (70%) 取り組み姿勢 (30%) により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	家畜解剖学 (選択科目)	担当教員	唐仁原 景昭
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜体の構造の仕組みを知ることによって、その生理機能を立体的に理解する。そして家畜体の利用方法に役立てる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 家畜の進化と特徴・人との体型比較 2 骨格：各部（頭蓋）と連結・形態 3 骨格：各部（胴骨）と連結・形態 4 骨格：各部（肢骨、歯）と連結・形態 5 筋肉の役割、構造・分類 6 消化器：口腔、咽頭、胃 7 消化器：腸、肝臓、脾臓 8 食肉の特性と枝肉の格付・と場 9 泌尿器：腎臓、尿路、生殖器 10 循環路：心臓、血管、リンパ管 11 呼吸器：肺、気管 12 神経系、感覚器：脳、神経、眼球、耳 13 内分泌系、外皮：ホルモン、皮膚・角質器 14 まとめ 15 試験 		
教科書 参考書	家畜比較解剖図説（養賢堂） 図説基礎動物生理学（アドスリー）		
成績評価 の方法	期末試験により評価する。		
備 考	テキストは図書室より借用		

授業科目 (履修区分)	家畜衛生学 (選択科目)	担当教員	岩淵 功
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜衛生学の基礎的な知識を習得することにより、家畜の疾病予防と健康の増進を図り、生産性の向上に寄与する技術を学ぶ。また、最近問題となっている、家畜の生産性を害する重要な疾病について理解を深める。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 畜産の現状と家畜衛生 2 家畜衛生関連機関と関連法規 3 家畜伝染性疾病の国内防疫 4 家畜伝染性疾病の国際防疫 5 生産衛生と農場 HACCP 6 家畜飼養環境の消毒 7 家畜の生産環境 8 家畜排泄物と環境保全型農業 9 牛の衛生管理 10 豚の衛生管理 11 鶏の衛生管理 12 人獣共通感染症と特用家畜、伴侶動物、展示動物の衛生管理 13 家畜用ワクチンとワクチネーション 14 家畜の中毒と飼料安全 15 期末試験 		
教科書 参考書	コアカリ 動物衛生学 文永堂出版株式会社 獣医衛生学教育研修協議会 編		
成績評価 の方法	定期試験、提出レポート、出欠席状況、講義聴講態度で評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	中小家畜論 (選択科目)	担当教員	本多 正隆
対象年次	研究科1年	期 別	令和5年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	中小家畜経営における総合的な技術体系及び流通構造について理解するとともに、これら畜産経営を取り巻く畜産情勢を解説してその理解を深める。		
授業内容	1 養豚・養鶏経営の現状 2 養豚・養鶏生産のライフサイクルと管理 3 養豚・養鶏の飼料事情 ① 養豚・養鶏の飼料 ②世界の飼料生産とわが国の飼料事情 4 飼料米・未利用資源の利用 5 配合飼料価格安定基金制度 6 豚・家禽の主要疾病 特に CSF 豚コレラによるワクチン接種及び衛生対策 7 一般衛生管理 8 慢性及び急性伝染病 9 海外悪性伝染病 (特にアフリカ豚コレラ)、 10 高病性鳥インフルエンザ対策 11 家畜家禽の生産設備 ①給餌設備機械 ②冷暖房・換気設備機械 ③畜舎衛生設備 ④ふん尿処理利用設備・機械 ⑤出荷設備 (鶏卵) 等 12 食肉、鶏卵の流通と食の安全 (食品添加物、ハラル等) ①飼料安全法 ②豚枝肉格付けと評価 ③鶏卵の規格 (JAS) ④農場 HACCP・JGAP 認証制度⑤SDG sにおける畜産の役割 13 諸外国における養豚・養鶏生産とわが国との貿易の現状と課題 ①アニマルウェルフェア (動物福祉) に基づく飼養管理体制の見直し ② 関税割当枠制度 ③ スマート農業における新たな展望 14 銘柄豚について 15 千葉県内の取組について		
教科書 参考書	※通常はスライド、配布プリントを用い、特定の教科書指定はない。 なお、必要に応じて下記参考教材を利用することがある。 「日本飼養標準(豚)・(家禽) (中央畜産会)」、家畜人工授精講習会テキスト (日本家畜人工授精師協会)		
成績評価 の方法	提出レポート (70%)、講義聴講態度 (30%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	大家畜論 (選択科目)	担当教員	新城 恒二
対象年次	研究科2年	期 別	令和5年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	大家畜の動物分類学的位置と特性及び栄養生理学的特性について学ぶ。さらに、繁殖・泌乳及び肥育技術等飼養管理技術、衛生管理技術等について学び、大家畜（主に牛）による畜産経営について理解醸成を図る。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 大家畜の位置付け、家畜化とその要因 2 大家畜の品種と特徴 3 牛の登録及び審査方法 4 反芻家畜の胃の構造と働き 5 酪農経営と乳用牛の飼養管理方法 6 肥育牛経営と肉用牛の飼養管理方法（乳用種・肉用種） 7 和牛繁殖経営と繁殖和牛の飼養管理方法 8 飼料の種類と特徴 9 飼料の給与と消化吸收 10 繁殖機能と生理 11 妊娠の成立機能と分娩 12 放射能汚染が経営に及ぼす影響 13 口蹄疫等悪性伝染病が経営に及ぼす影響 14 牛海綿状脳症（BSE）の現状 15 全体評価（評価試験） 		
教科書 参考書	家畜人工授精講習会テキスト 家畜繁殖額の基礎 主に教科書を使用し、授業内容によってプリント配布		
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）、評価試験（概ね80%）により評価する。		
備 考			

ウ 専攻実習

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (必修科目)	担当教員	各専攻 教員-
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	各専攻教室に所属し、農畜産物の生産や調査を通じて生産技術・加工利用・課題等について学習するとともに、研究成果（課題研究）に取り組み、問題解決能力を高める。		
授業内容	<p>次の11専攻教室に所属し、その専攻教員の指導により専門的な実習に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作物専攻教室 2 露地野菜専攻教室 3 施設野菜専攻教室 4 果樹専攻教室 5 花卉専攻教室 6 畜産専攻教室 7 生物工学専攻教室 8 病害虫専攻教室 9 土壌肥料専攻教室 10 食品加工専攻教室 11 情報経営専攻教室 		
教科書 参考書	各専攻教室 必要により資料提供		
成績評価 の方法	出席と学習及び論文への取組態度		
参考図書			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (作物) (必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 板倉 里絵
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>食用作物 (イネ・ムギ類・マメ類・イモ類他) の栽培を通じてさらなる栽培技術の習得やその品目の特性について理解を深める。</p> <p>下級生達への栽培指導や卒論等へのアドバイスを行うことで、効率的な作業方法や作業の段取り、物事への取り組む姿勢などを学び、農業即戦力となる後継者、指導者等を育成する。</p>		
授業内容	<p>様々な品目の栽培を通じて下記の内容について理解習得を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 様々な品種の特性や使用する資材、土壌や気象についての知識の習得 2 異なる栽培方法の管理技術の習得 3 的確な病害虫防除の習得 4 作物の栽培方法および生育状況に合わせた施肥技術の習得 5 販売方法に合わせた出荷調製作業の習得 6 収量や品質の結果から、次年度栽培時での改善方法の提案 		
教科書 参考書	必要により資料提供		
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、技術・知識の習得状況 (30%)、後輩指導に対する姿勢(20%)		
参考図書	<p>「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」(千葉県農林技術会議)</p> <p>「農作物病害虫雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部安全農業推進課)</p>		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (露地野菜) (必修科目)	担当教員	田村 創 佐瀬善浩
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>農学科等で学んだ知識を基礎に、ほ場における実際栽培を学ぶ。 主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理 及び出荷調製技術等を学習する。 また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーと しての資質向上や指導者としての涵養を図る。</p>		
授業内容	<p>1 野菜に関する知識の習得 (1)野菜の分類と栽培方法 (2)野菜の育苗と栽培管理 (3)病害虫の診断と対処法 (4)環境負荷に考慮したエコ農業</p> <p>2 栽培管理技術の習得 (1)果菜類、豆類 (トマト・キュウリ・メロン、スイートコーン、ソラ マメ等) の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技 術習得と理解を進める。 (2)葉茎菜類 (ネギ・キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・レタス等) の育苗管理、肥培管理を習得する。 (3)軟弱野菜 (ハウレンソウ・コマツナ等) の周年栽培技術 (雨よけや トンネル栽培) を習得する。 (4)根菜類 (ダイコン・ニンジン・サトイモ等) の品種特性やマルチ利 用効果の理解を深める。</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得 (1)学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p>		
教科書			
成績評価 の方法	出席状況 (40%)、実習態度 (40%)、技術・知識の習得状況 (20%)		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林 水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業 推進課)、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (施設野菜) (必修科目)	担当教員	菅原 諒一 小林 亮輔
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	施設野菜の栽培を通して、栽培管理技術等について習得する。研究科1年から2年における課題研究に向けて、データ収集、調査・研究を進める。また、就農予定者は営農計画の作成を目指す。		
授業内容	1 野菜に関する知識の習得 (1)施設野菜の分類と栽培方法 (2)施設野菜の育苗と栽培管理 (3)病虫害の診断と対処法 (4)施設環境負荷に考慮したエコ農業 (5)スマート農業 2 栽培管理技術の習得 (1)果菜類 (トマト・キュウリ・メロン・スイカ・イチゴ・オクラ等) の品種特性、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2)葉茎菜類 (コマツナ・ホウレンソウ等) の育苗管理、肥培管理を習得する。 (3)根菜類 (サツマイモ等) の品種特性の理解を深める。 3 知識や技術の実践力の体得 (1)学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況 (40%)、実習態度 (40%)、技術・知識の習得状況 (20%)		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病虫害雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業推進課)、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (花き園芸) (必修科目)	担当教員	椿 正明 菅澤太地
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び花き栽培の実践的能力を養う。		
授業内容	<p>切り花選択と鉢花選択に分かれ実習を行うが、研究成果で扱う植物とは別に切り花と鉢花の区別なくできるだけ多くの花きに接するとともに、それらの花きを栽培することにより花き生産の基本的事項を習熟する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主な花きの名称、分類を理解する。 2 花きの栽培管理を学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) 栽培計画 (2) 施肥設計 (3) 播種・育苗管理 (4) 病虫防除技術 (5) 温室管理技術 (6) 灌水方法 (7) 除草 3 生産した花きを利用したディスプレイや寄せ植え作りなどの装飾技術の習得 4 出荷調製作業の実際 5 試験・調査方法の習得 		
教科書 参考書	草花栽培の基礎 (農文協) 花の小事典(農文協) 農業技術体系		
成績評価 の方法	○取り組み姿勢 (50%) ○技術習得状況 (50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (畜産) (必修科目)	担当教員	村田美里 本多正隆
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>農学科等で学んだ知識を基礎に、畜産全般における肥育繁殖技術等を学ぶ。</p> <p>乳用育成牛等反芻動物の飼育繁殖管理、肥育繁殖豚、採卵鶏等の飼育管理と疾病の対応、家畜の衛生管理（流行性人畜共通伝染病）及び出荷調製技術等を学習する。</p> <p>また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーとしての資質向上や指導者としての涵養を図る。</p>		
授業内容	<p>1 畜産に関する知識の習得</p> <p>(1)家畜の分類と飼育管理方法</p> <p>(2)家畜の系統造成と高度な繁殖技術の習得</p> <p>(3)家畜伝染病の診断と衛生管理方法</p> <p>(4)環境負荷に考慮したエコ農業やスマート農業技術習得</p> <p>2 家畜繁殖技術の習得</p> <p>(1)乳用牛、山羊、豚、鶏（ホルスタイン種・ザーネン種・シバヤギ、ランドレース種、三元雑種、白色レグホン種等）の品種特性、飼育管理、害虫防除、飼料配合調製の基本的な技術習得と理解を進める。</p> <p>(2)飼料用牧草地の管理と牧草の育生方法</p> <p>(3)高度な繁殖技術（AI、受精卵移植技術）の基本知識習得</p> <p>(4)アニマルウェルフェアによる飼育管理方法の技術習得</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1)学生ごとに圃場や家畜の飼育管理の実践</p> <p>4 地域畜産のリーダー及び指導者としての涵養</p>		
教科書			
成績評価の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	家畜飼育の基礎、日本飼養標準、畜産センター研究報告書、新しい農業技術（酪肉、養豚、養鶏）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (生物工学) (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	植物の培養、順化、栽培をとおして、培養技術の習得、培養計画の考案、栽培技術の基礎を身に付ける。また、各自の課題研究テーマに合わせた試験研究を計画実施し、調査方法等を習得する。		
授業内容	1 薬品、実験器具の正しい使用法 2 課題の設定と実験計画 3 植物組織培養技術の習得 4 実験植物等の栽培技術の習得 5 文献等情報収集法の習得		
教科書 参考書	実習内容によって適宜関連文献等を配布		
成績評価 の方法	○取り組み姿勢 (50%) ○技術習得状況 (50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (病虫害) (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	病虫害に関する知識向上のため、病虫害専攻教室ほ場において実際の栽培や病虫害の発生生態、防除方法等を学ぶ。 また、各自のテーマに合わせた調査研究の実施とその結果の取りまとめを行う。		
授業内容	<p>1 病虫害の発生生態や管理技術等に関する知識の習得</p> <p>(1) 農作物の病虫害の診断・同定</p> <p>(2) 農作物の病虫害の生理生態</p> <p>(3) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等</p> <p>(4) 総合的病虫害・雑草管理 (IPM) の考え方</p> <p>(5) IPM を念頭に置いた病虫害管理技術とその実践方法</p> <p>(6) IPM の実践における経営的な評価</p> <p>2 農作物の栽培管理技術、病虫害や天敵の増殖技術等の習得</p> <p>(1) 農作物の播種、育苗技術の習得</p> <p>(2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得</p> <p>(3) 農作物の病虫害管理技術の習得</p> <p>(4) 病虫害や天敵の飼育・増殖方法等の習得</p> <p>3 試験方法及び調査方法の習得と実践</p> <p>試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践</p>		
教科書 参考書	各自の試験内容に関係する図書及び文献 (学術論文等)		
成績評価 の方法	出席回数 (40%)、実習態度 (30%) 及び習熟度 (30%) により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（土壌肥料） (必修科目)	担当教員	永沢朋子 高田伯約
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	作物・園芸品目の栽培を通して、栽培管理技術を習得するとともに土壌に関わる影響を確認する。また、先進技術として環境制御に関する技術も確認する。研究科1年から2年における研究成果作成に向けて、データ収集、調査・研究を進める。		
授業内容	1 作物・園芸品目に関する知識の習得 (1)栽培方法 (2)病虫害の診断と対処法 (3)環境制御技術 2 栽培管理技術の習得 (1)品種特性、育苗管理、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2)土壌管理方法の技術習得と理解を進める。 3 知識や技術の実践力の体得 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（食品加工） (必修科目)	担当教員	木内 美和
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>食品学の講義で学んだ知識を基礎に研究科では、食品専攻室ほ場における実際の栽培、その加工、貯蔵技術を学ぶ。</p> <p>主要な農産物の付加価値の原理と実験を行う。一方で、各研究成果のテーマに合わせた農産物の特性、利用方法を理論的にまとめる誘導を行う。</p>		
授業内容	<p>1 農産加工に関する知識の習得</p> <p>(1)乳の加工</p> <p>(2)ジャム、ソースの加工</p> <p>(3)米粉・小麦粉を利用したパン、菓子の加工</p> <p>(4)野菜の加工・料理</p> <p>(5)千葉県に伝わる伝統料理、加工品</p> <p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>キャベツ、トマト、ニンジン、トウモロコシ、ジャガイモ、ブロッコリー等の栽培管理、加工原料の見極めなど生産、加工の一本化を学ぶ。</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1)農産加工原料の特性と加工</p> <p>(2)貯蔵の技術</p> <p>(3)最近の食品加工技術・知識</p>		
教科書 参考書	<p>食品製造 実教出版、「新食品成分表」とうほう</p> <p>野菜ハンドブック</p> <p>農業経営とマーケティング</p>		
成績評価 の方法	<p>取組姿勢及び理解度 50%</p> <p>技術習得状況 50%</p>		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (情報経営) (必修科目)	担当教員	保坂信久
対象年次	研究科 1年 研究科 2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>情報経営専攻教室では、生産・販売・流通・経営や地域農業の振興などの課題研究に取り組む。</p> <p>現状分析を徹底し、問題解決学習を体現することで論理的思考を学習する。</p> <p>また、研究科生として運営している模擬会社と密接に連携し、生産から加工・販売など様々な視点で調査研究し、経営のノウハウを習得する。</p>		
授業内容	<p>1 情報、経営に関する知識の習得</p> <p>(1)農業経営に関する情報の種類</p> <p>(2)農産物の流通、生産におけるマーケティングの必要性</p> <p>(3)農業政策・関係法規</p> <p>(4)情報発信効果を発揮させる要点</p> <p>(5)農産物直売所、グリーンツーリズムの現状と課題</p> <p>(6)千葉農大商店模擬会社の組織運営</p> <p>(7)スマート農業の利用について</p> <p>2 情報収集の手法と処理技術の習得</p> <p>(1) 農業経営に必要な情報の集め方</p> <p>(2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法</p> <p>(3) 地域農業の統計資料、インターネットによる情報の収集、分析、活用、課題解決に向けたシミュレーション実施</p> <p>(4)農業経営の収益性、生産性の分析</p> <p>(5)農業経営診断の指標、手順を理解し、診断ポイントを学ぶ</p> <p>3 試験方法及び調査方法の習得と実践</p> <p>調査設計、調査区の設定、調査方法、データの収集・集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践</p>		
教科書 参考書	適宜資料を配布する		
成績評価 の方法	取り組み姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)		
備 考			

エ 研究成果（課題研究）

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (必修科目)	担当教員	各専攻担当
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	調査対象作物・家畜の栽培飼養管理や実験、調査の課題を設定し、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行う能力、集計する能力、分析、評価する能力を養う。また、その成果をまとめて効果的な発表を行う能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象作物・家畜及び課題の設定 2 試験調査設計（材料及び方法、調査項目の検討） 3 対象作物・畜産の栽培飼養管理及び調査、データの収集 4 調査結果のまとめ、分析・評価、プレゼン資料作成 5 課題発表会（1年次：6月） 6 中間成績発表会（1年次：2月、2年次：10月） 7 研究成果（課題研究）パネル展示（11月） 8 研究成果（課題研究）発表会（12月） 9 研究成果（課題研究）まとめ（12－1月） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 10 研究成果（課題研究）・進路報告会（2月） 		
教科書 参考書	各専攻指定		
成績評価 の方法	課題発表会、中間成績発表会、パネル展示、研究成果（課題研究）発表会、研究成果（課題研究）の作成において、総合的に判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (作物) (必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 板倉 里絵
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>イネやイモ類などの作物の生理・生態や栽培の基礎を理解する。研究成果の課題を設定し、栽培計画を作成する。課題解決に向けた調査・研究を行い、生育調査や観察を通じて科学的な分析を学び、研究成果としてまとめる。</p> <p>最新の農業技術（スマート農業等）や機械利用による省力化技術を積極的に研究成果に反映する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データ収集、知見 (気象・環境条件、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 社稷祭パネル作成・展示 8 発表会 9 研究成果（課題研究）提出 10 研究成果（課題研究）・進路報告会 		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	パネル展示、研究成果発表会、研究成果ほか、作物の栽培管理の状況等、取組状況を総合的に判断する。		
備 考	<p>「作物栽培の基礎」（遮断法人農村漁村文化協会）</p> <p>「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・</p> <p>「野菜ハンドブック」（千葉県農林技術会議）</p> <p>「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部安全農業推進課）</p>		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (露地野菜) (必修科目)	担当教員	田村 創 佐瀬善浩
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>露地野菜の生理生態や高度な栽培技術及び出荷調製技術等を理解させる。</p> <p>研究課題の作成にあたっては、自ら情報収集し、課題設定を行い、栽培計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果（課題研究）としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報収集 2 課題の設定 3 試験設計立案（品目、内容の検討） 4 試験区設定 5 試験栽培 6 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 7 調査結果のまとめ、分析 8 パネル展示 9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）進路報告（2月） 		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席態度 60%、研究成果 20%、発表会 10%、パネル展示 10%		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (施設野菜)(必修科目)	担当教員	菅原 諒一 小林 亮輔
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	施設野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調製技術等を理解させる。 課題研究の作成にあたっては、課題を設定し、栽培計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果(課題研究)としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案(作物の選定、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析(研究科2年) 7 パネル展示 8 研究成果(課題研究)発表会(12月上旬) 9 研究成果(課題研究)提出(1月中下旬) 10 研究成果(課題研究)・進路報告(2月中旬)		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢(60%)、研究成果(20%)、発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業推進課)、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (果樹園芸)（必修科目）	担当教員	佐々木 良規 吉田 明広
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>課題設定、調査手法、タイムスケジュールの構築、分析方法を理解し、パソコン操作の習熟によりデータを取りまとめる。</p> <p>さらに、研究成果を作成するとともに効果的な情報発信・企画運営を行うスキルを身につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 試験設計立案（対象、方法の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 (売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等) 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬） 		
教科書 参考書	千葉県果樹病虫害雑草防除指針、千葉県主要農作物等施肥基準等		
成績評価 の方法	知識理解（60%）、取組態度（40%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (花き園芸)(必修科目)	担当教員	椿 正明 菅澤太地
対象年次	研究科2年 研究科1年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・花きの栽培管理や開花調節技術を身に付ける。 ・課題研究を作成するに当たり、課題の設定と進行計画を作成する。 ・課題に基づいた調査やデータの取りまとめ方法を学習するとともに、分かりやすい発表方法を身に付ける。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 試験設計立案(内容の検討) 3 試験栽培 4 調査、データの収集、取りまとめ 5 研究成果(課題研究)中間発表 (研究科1年生の2月 2年生の9月) 6 研究成果(課題研究)成果発表会(12月上旬) 7 研究成果(課題研究)提出(1月中旬) 8 研究成果(課題研究)受理式(2月) 		
教科書 参考書	草花栽培の基礎(農文協) 花の小事典(農文協) 農業技術体系		
成績評価 の方法	○課題研究への取り組み姿勢や理解度(20%) ○課題研究中間発表(30%)、 ○パネル展示(20%) ○課題研究成果発表会(30%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （畜産）（必修科目）	担当教員	村田美里 本多正隆
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	畜産の生産管理や高度な繁殖技術及び出荷調製技術等を理解する。 課題研究の作成にあたっては、自ら情報収集し、課題設定を行い、畜産生産計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や発育肥育調査による科学的な分析力を学び、課題研究としてまとめる。		
授業内容	1 情報収集 2 課題の設定 3 試験設計立案（品目、内容の検討） 4 試験区設定 5 試験栽培 6 調査、データの収集、知見 （畜舎・環境条件、飼料分析、生育・肥育・品質調査、伝染病の把握と病気疾病等の発生状況） 7 調査結果のまとめ、分析 8 パネル展示 9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）進路報告（2月）		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席態度 60%、課題研究 20%、発表会 10%、パネル展示 10%		
備 考	家畜飼育の基礎、日本飼養標準、畜産センター研究報告書、新しい農業技術（酪肉、養豚、養鶏）		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (生物工学) (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	対象植物および培養物の栽培管理を通して基本技術を習得し、自ら考えて課題を解決する能力を養うことを目標とする。課題研究作成及び発表にあたり、データを解析し考察することに努め、研究成果（課題研究）を説明する能力を向上させる。		
授業内容	1 課題の設定 2 調査及び実験計画立案 3 試験区設定 4 実験データの取り方とまとめ方 5 研究成果（課題研究）中間発表 （研究科1年生の2月 2年生の9月） 6 研究成果（課題研究）発表会 （12月上旬） 7 研究成果（課題研究）提出 （1月中旬） 8 研究成果（課題研究）受理式 （2月）		
教科書 参考書	資料を提供し、適時紹介する		
成績評価 の方法	○取り組む姿勢 （50%） ○課題研究中間発表 （10%） ○パネル展示 （10%） ○研究成果（課題研究）発表会 （30%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果 (課題研究) (病虫害) (必修科目)	担当教員	清水敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>病虫害に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果の取りまとめに関する能力を醸成する。</p> <p>研究成果の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、研究成果 (課題研究) を論文としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 試験設計立案 (品目、内容等の検討) 3 試験区設定 4 試験実施 5 調査データの収集及び知見の蓄積 (病虫害及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 研究成果 (課題研究) 中間発表 (研究科1年生の2月 2年生の9月) 9 研究成果 (課題研究) 発表会 (12月上旬) 10 研究成果 (課題研究) 提出 (1月) 11 研究成果 (課題研究) 進路報告 (2月) 2年生 		
教科書 参考書	各自の試験内容に関する図書及び文献 (学術論文等)		
成績評価 の方法	出席態度 60%、研究成果 20%、発表会 10%、パネル展示 10%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (土壌肥料) (必修科目)	担当教員	永沢朋子 高田伯約
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>作物や園芸品目の生理生態や栽培の基礎及び土壌管理技術等を理解する。</p> <p>課題研究の作成にあたっては、課題を設定し、栽培計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果(課題研究)としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 試験設計立案(作物・園芸品目の選定、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 研究成果(課題研究)発表会(12月上旬) 9 研究成果(課題研究)提出(1月中下旬) 10 研究成果(課題研究)・進路報告(2月中旬) 		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢(60%)、研究成果(20%)、発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業推進課)、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） （食品加工）（必修科目）	担当教員	木内美和
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	研究成果（課題研究）の作成にあたっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物の付加価値を消費者にも伝えられる手法を検討し2年間で論文としてまとめる。 各研究成果（課題研究）のテーマに合わせた農産物の特性、利用方法を理論的にまとめる誘導を行う。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（内容の検討） 3 加工実験内容設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （加工・調理方法、栽培状況・収量・消費動向状況等） 6 研究成果（課題研究）中間発表 （研究科1年生の2月 2年生の9月） 7 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 8 研究成果（課題研究）提出（1月） 9 研究成果（課題研究）受理式（2月）		
教科書 参考書	食品製造 実教出版 農林水産省（統計調査）		
成績評価 の方法	取り組み姿勢 60%、研究成果中間発表・研究成果発表会 30%、 パネル展示 10%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (情報経営)（必修科目）	担当教員	保坂信久
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和5年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>農業経営において、基礎的な情報収集の手法を学ぶ。また、経営改善を図る必要なITリテラシーを習得する。</p> <p>研究成果（課題研究）については、課題設定、調査手法、分析方法を理解し、パソコン操作によるデータ集計と考察・評価を取りまとめる。</p> <p>さらに、効果的な情報発信・企画運営を行うスキルを身につけ、プレゼンテーション能力を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題の設定 2 調査設計立案（対象、方法の検討） 3 調査期間、対象、データの取得方法、分析方法の設定 4 調査、データの収集、知見 (売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等) 5 調査結果のまとめ、分析、評価 課題解決におけるシミュレーション 6 課題発表会 1年生（6月） 7 社稷祭パネル（11月） 8 中間発表会 1年生（2月）、2年生（9月） 9 研究成果（課題研究）発表会2年生（12月） 10 研究成果（課題研究）提出2年生（1月） 11 研究成果（課題研究）、進路報告会（2月）2年生 		
教科書 参考書	各自の調査内容に関する図書及び文献 適宜資料を配布する。		
成績評価 の方法	研究成果、中間発表、発表会、パネル展示、提出期限 (上記の項目において、関心意欲態度・思考判断・技能表現・知識理解を総合的に評価する。)		
備 考	会計ソフトを利用する実習がある。		